

本県における経済活動別の労働生産性について

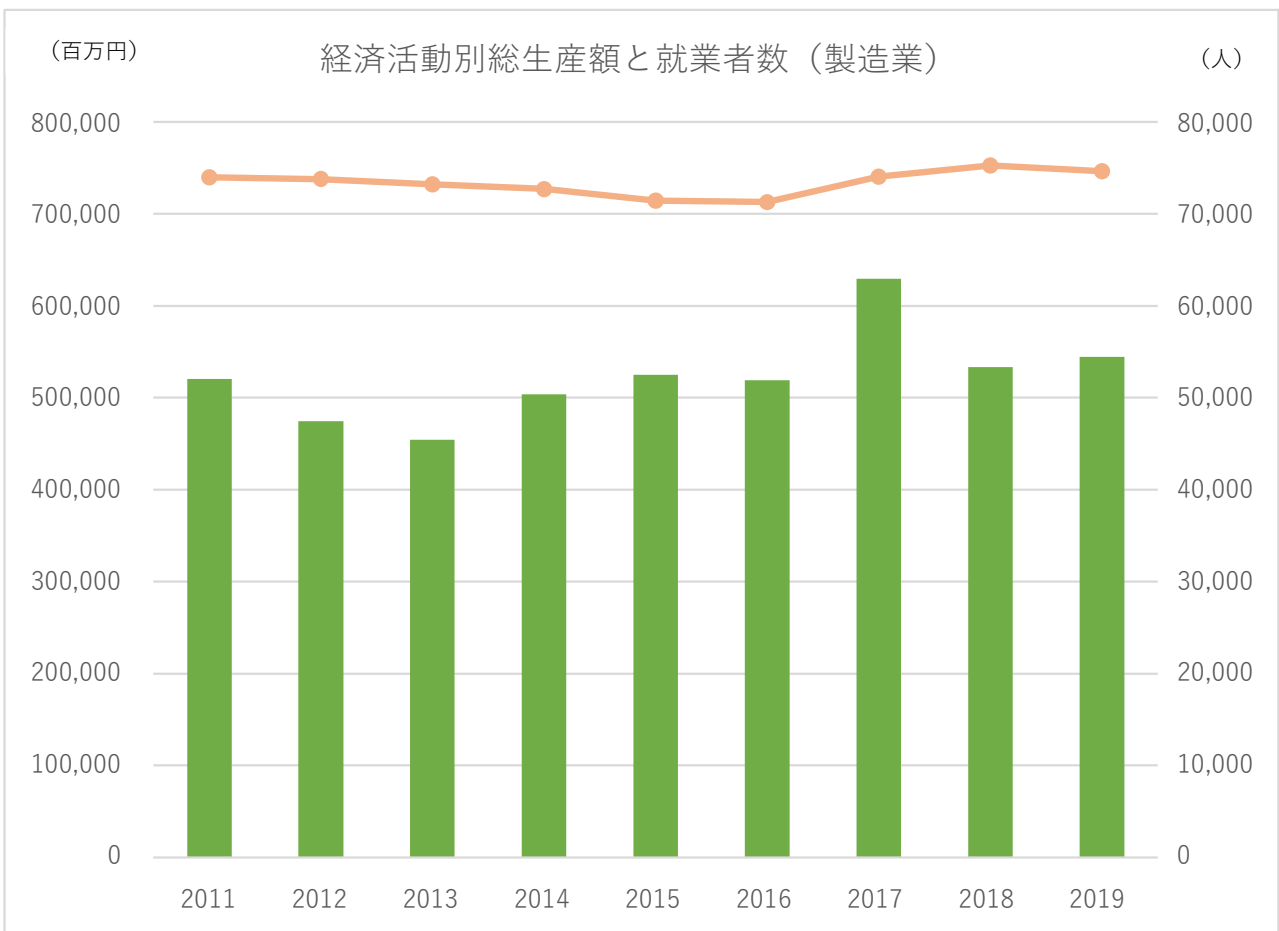
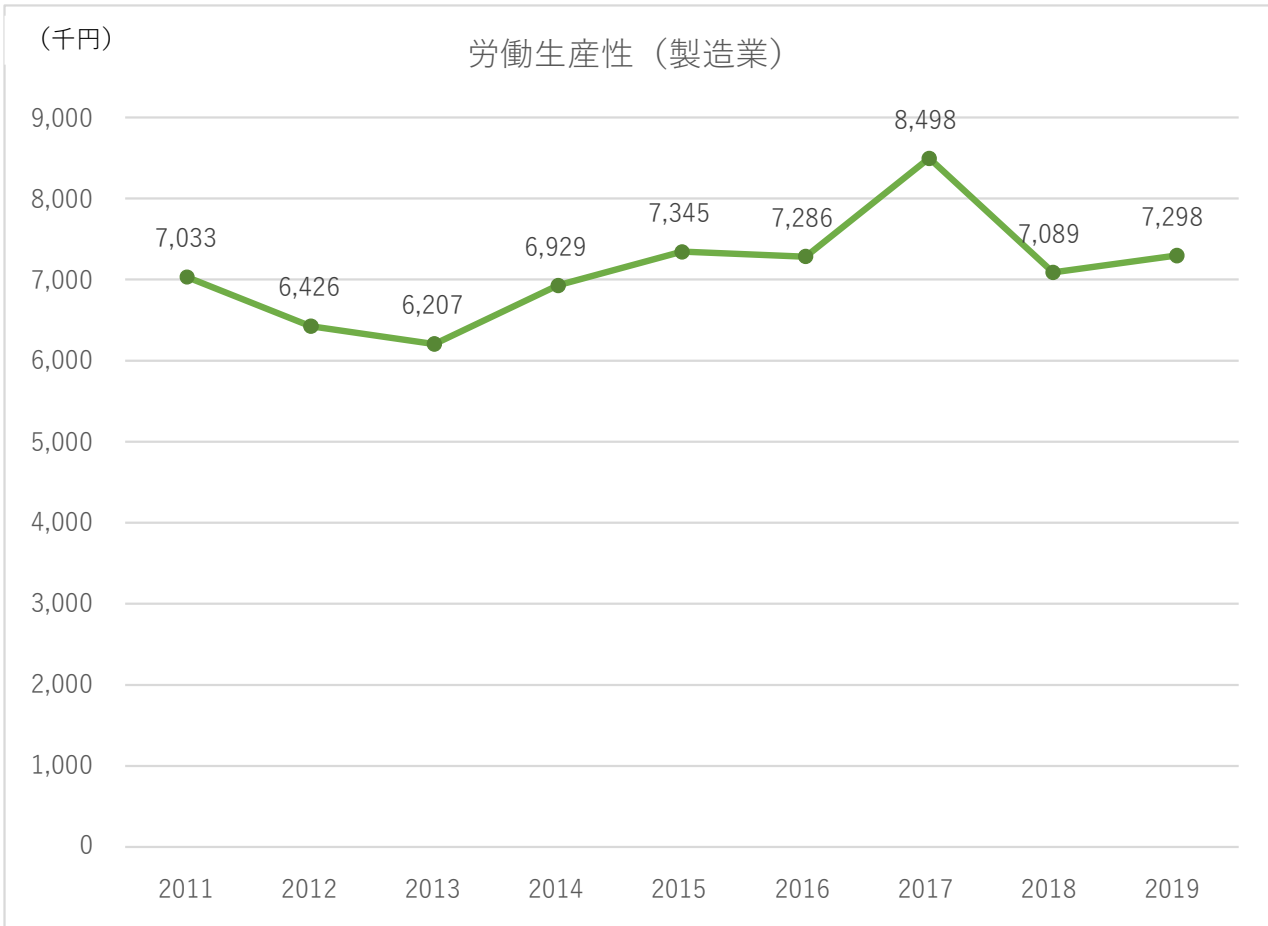
令和4年6月29日

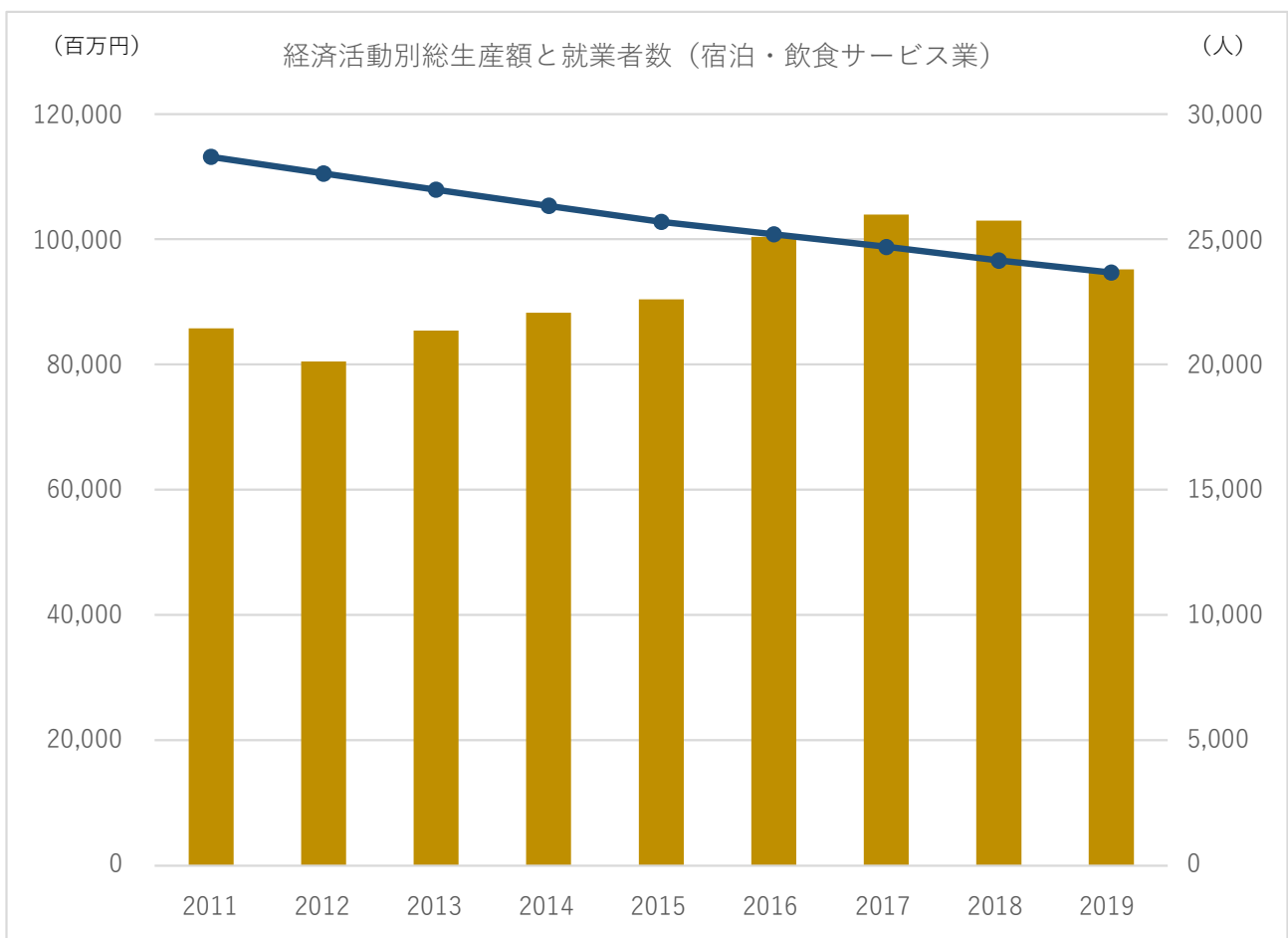
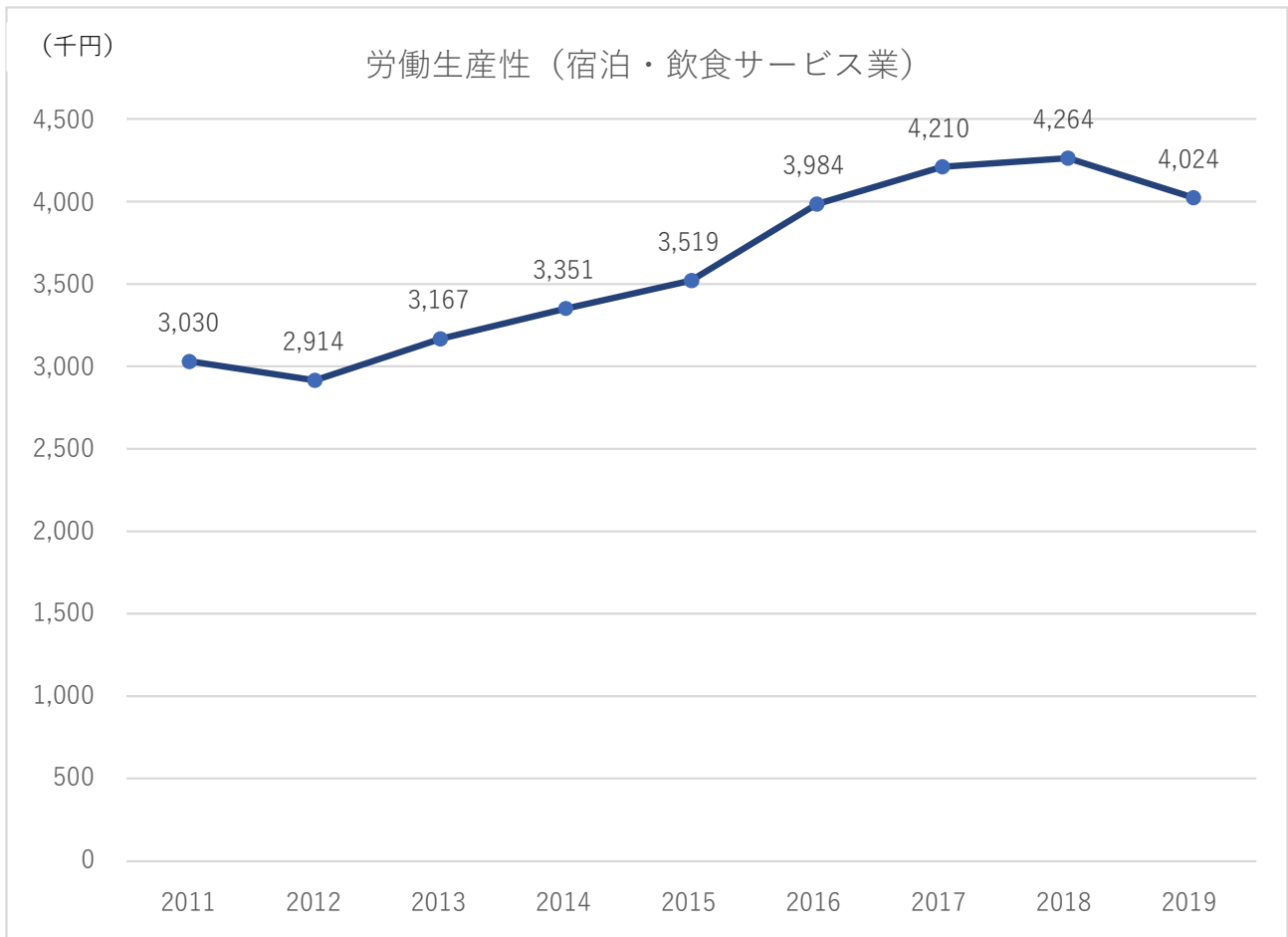
観光戦略課

＜趣旨＞

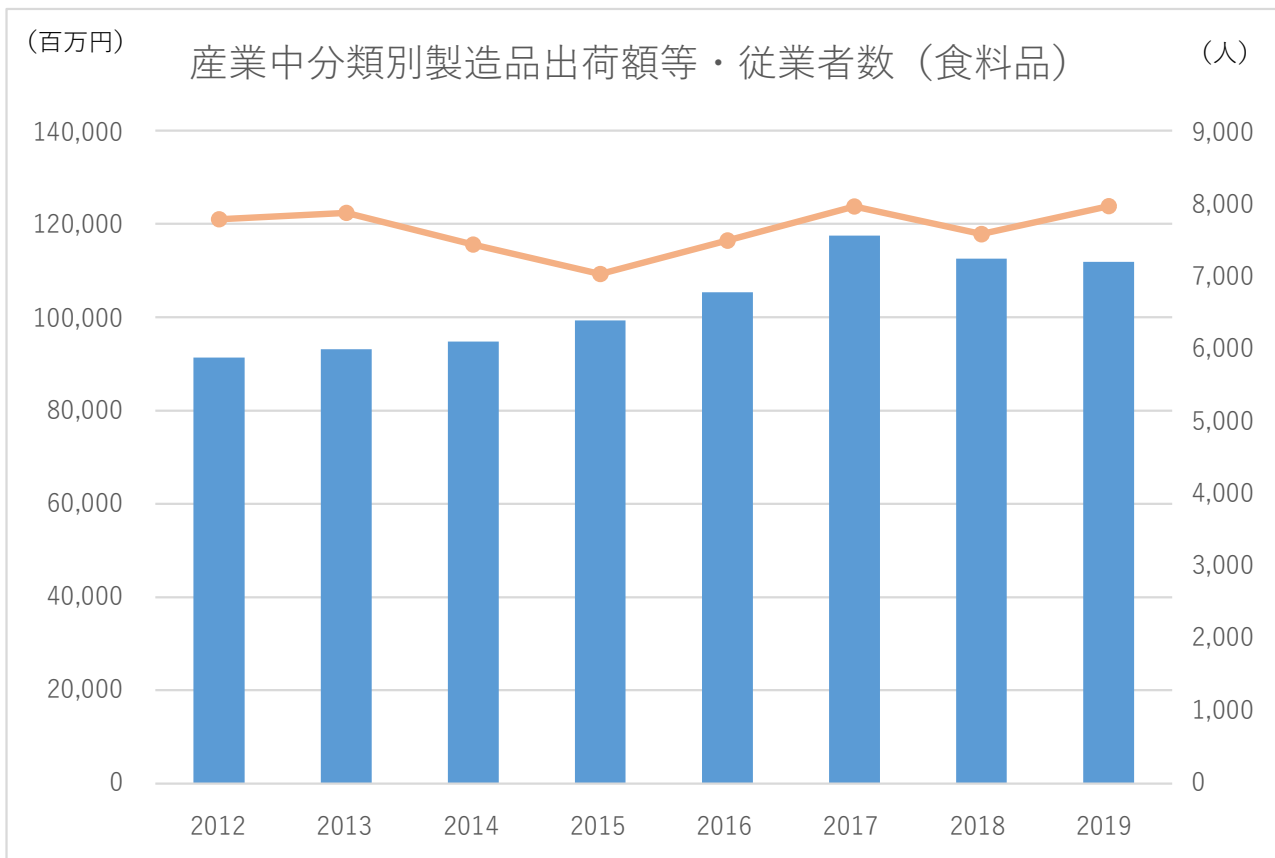
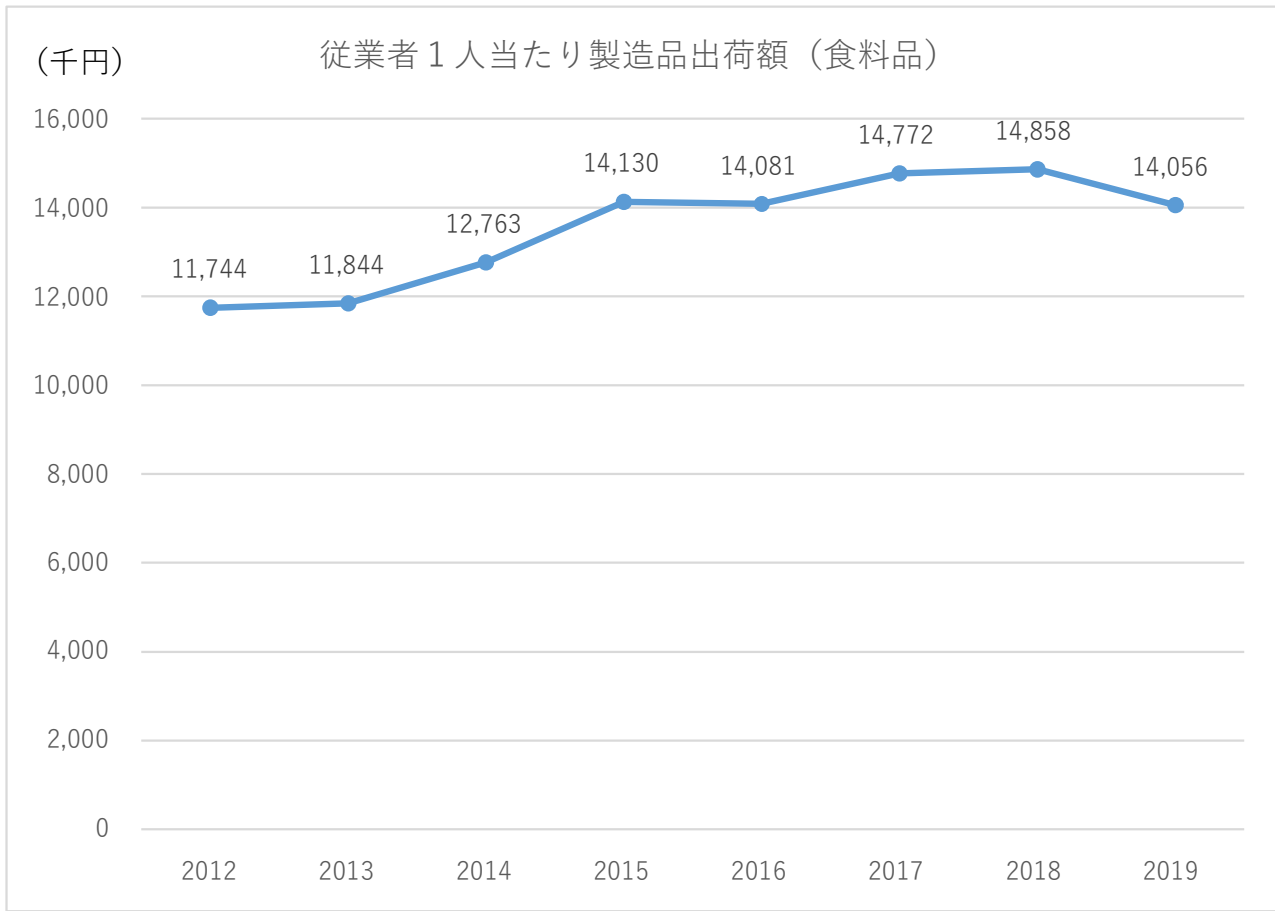
- 新秋田元気創造プランでは「賃金水準の向上」を県の重点課題の1つに掲げており、その中で労働生産性の向上は重要な要素である。
- この度、全庁的に、県民経済計算のデータを使用し、各経済活動（産業別）の労働生産性を算出したところ、近年、本県における労働生産性が向上しており、産業別では、県内総生産全体に対する増加寄与度が高い建設業、電気・ガス・水道・廃棄物処理業、保健衛生・社会事業のほか、宿泊・飲食サービス業などで上昇傾向にあることが分かった。
- 製造業については、全体として、労働生産性のほか、総生産額、就業者数とも大きな変化はあまり見られないものの、食料品については、1人当たりの製造品出荷額が増加傾向にあることが分かった。
- 今後の観光等に係る施策を推進するに当たり、これらの指標を分析した上で、進めていくことが重要であると考えている。
- 観光・交流部会の対象となる「宿泊・飲食サービス業」と「製造業（食料品）」における労働生産性の上昇及び従業員1人当たりの製造出荷額の増加について、その要因や背景、影響等に関し、各委員の皆様から御意見をいただきたい※。

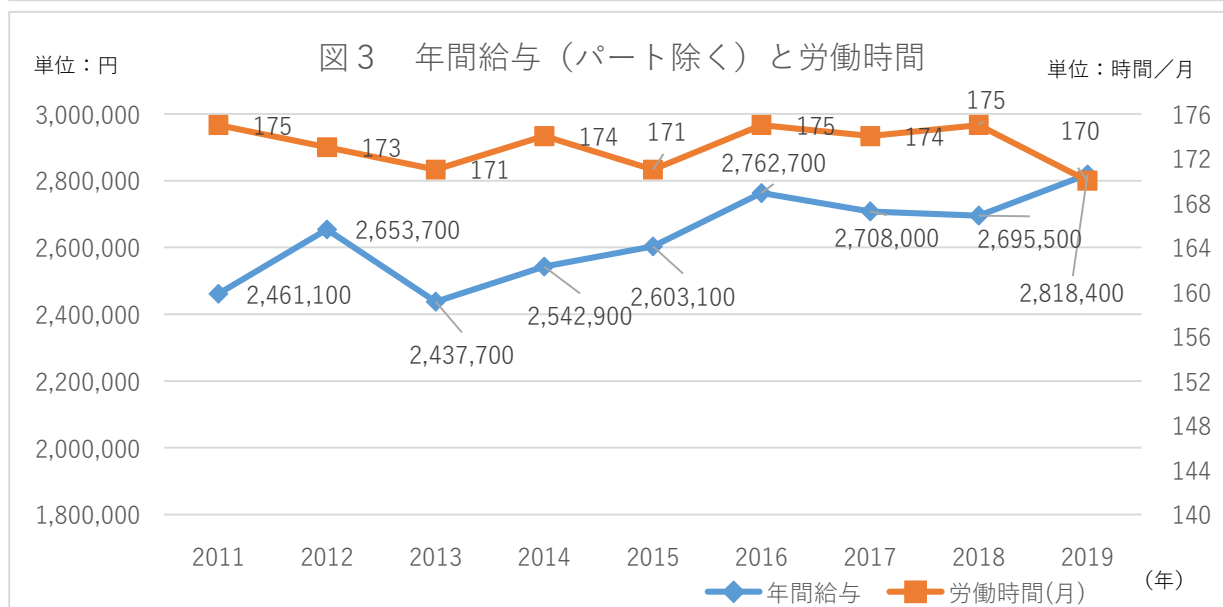
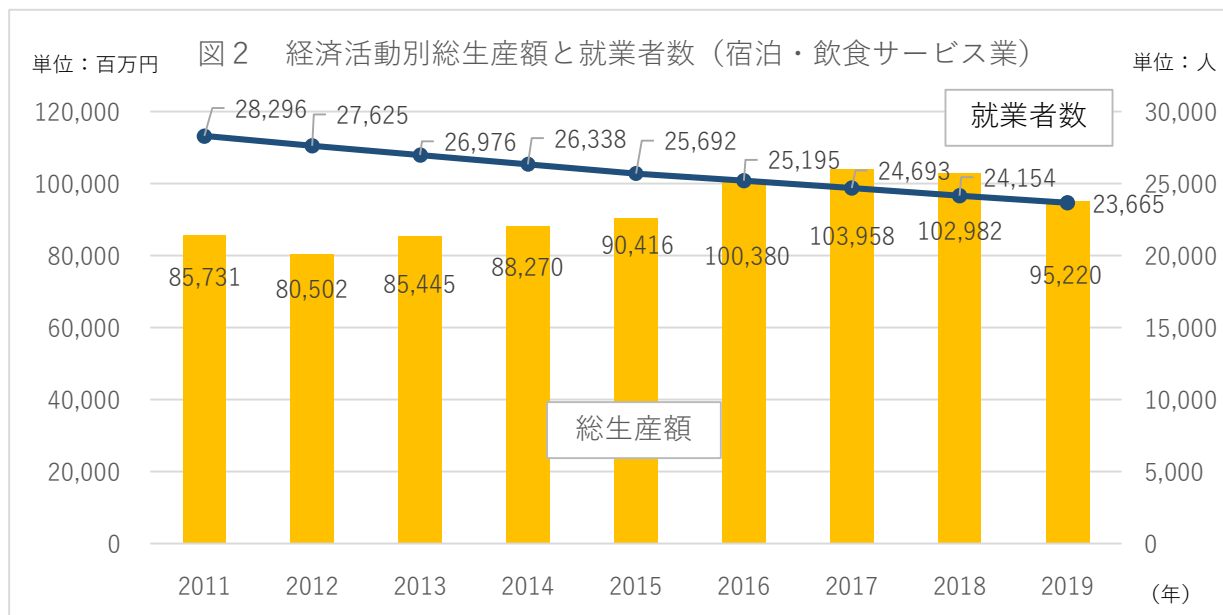
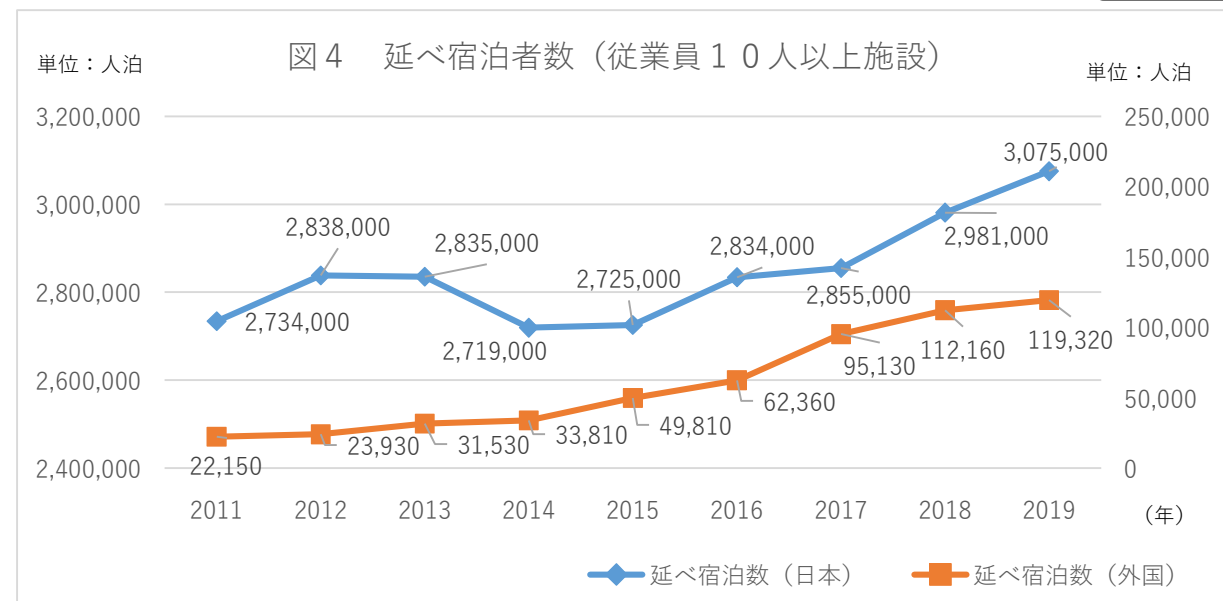
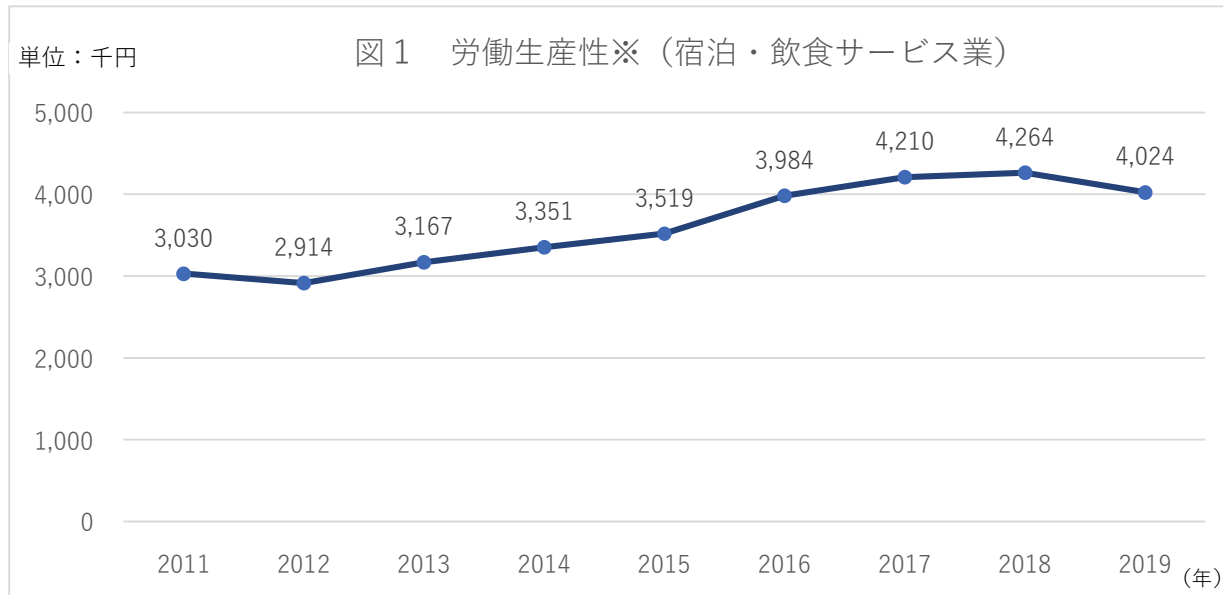
※労働生産性が向上したと考えられる要因に係る資料は、**別途追加配布**





製造業中分類（工業統計より）





＜データ結果＞

- 2011年から2019年までの労働生産性を見ると、2018年の4,264千円をピークに上昇傾向にある（図1）
- 就業者数は年々減少している一方、総生産額は上昇している（図2）
- 1月当たりの労働時間は、大きな変化はないものの、年間給与は上昇している（図3）
- 延べ宿泊者数は、日本人・外国人ともに、上昇している（図4）

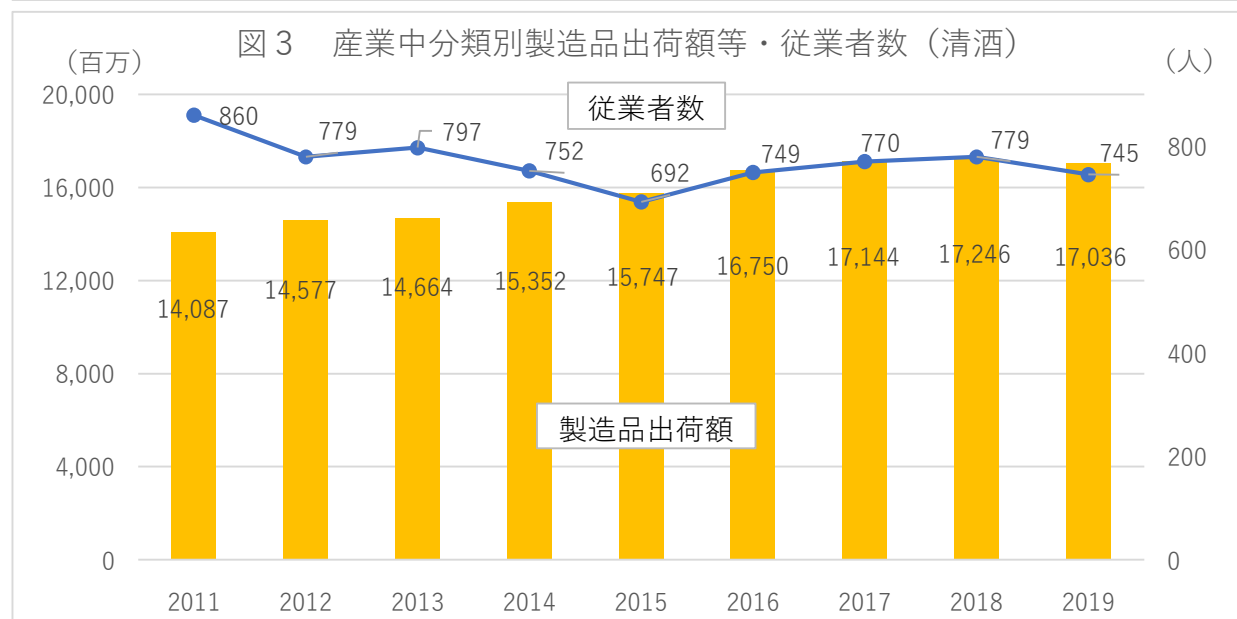
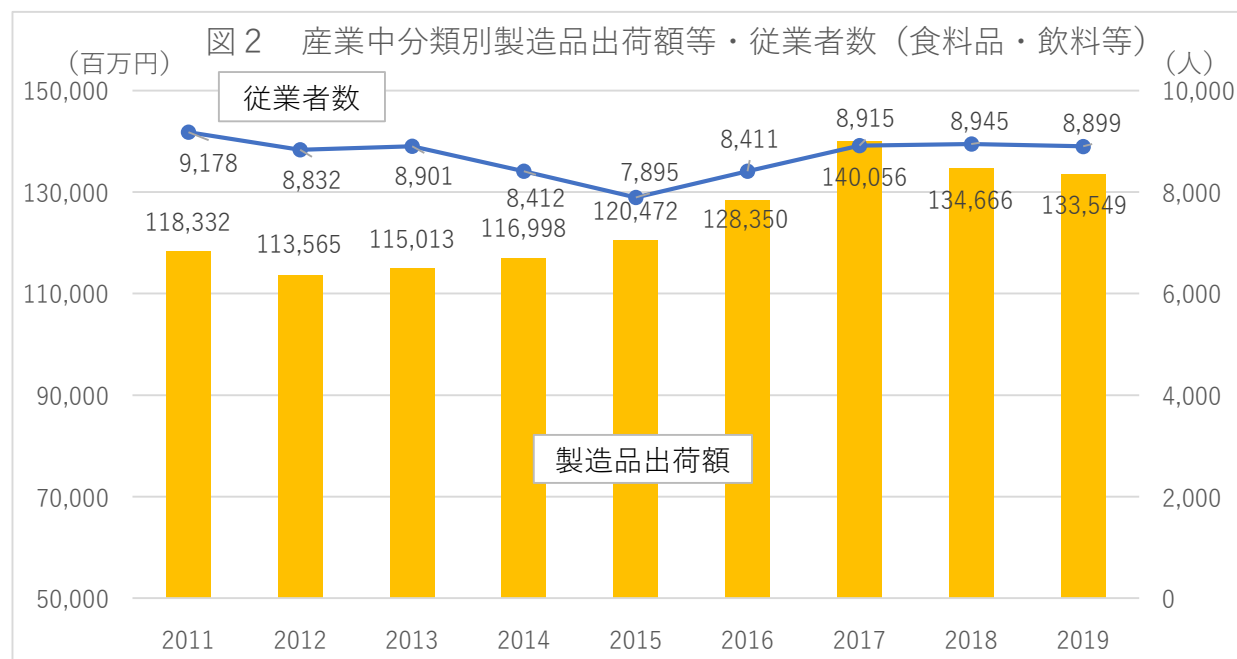
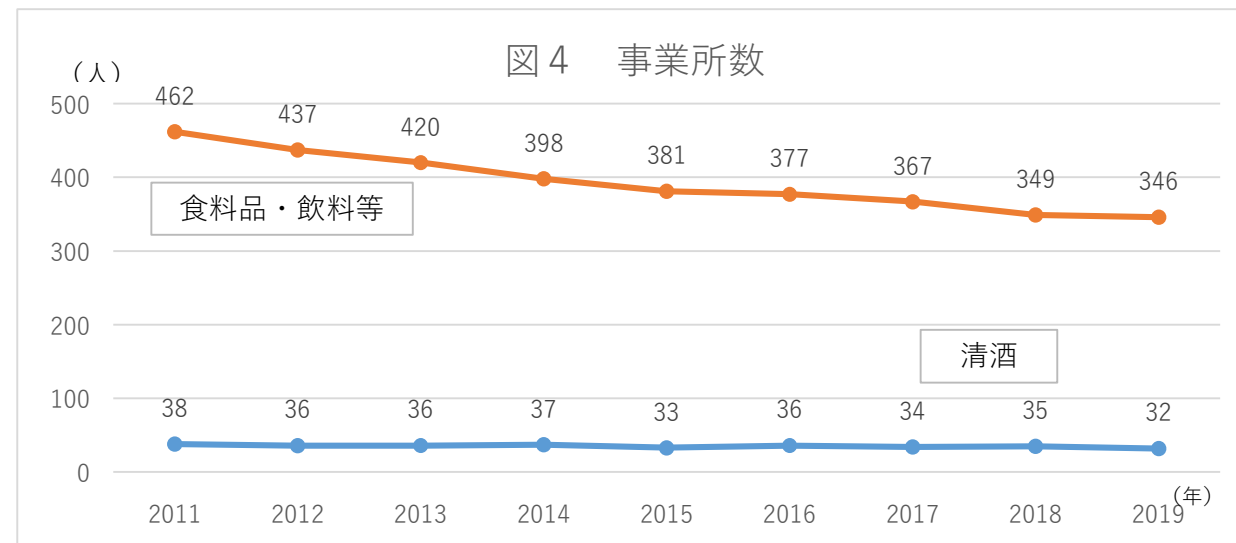
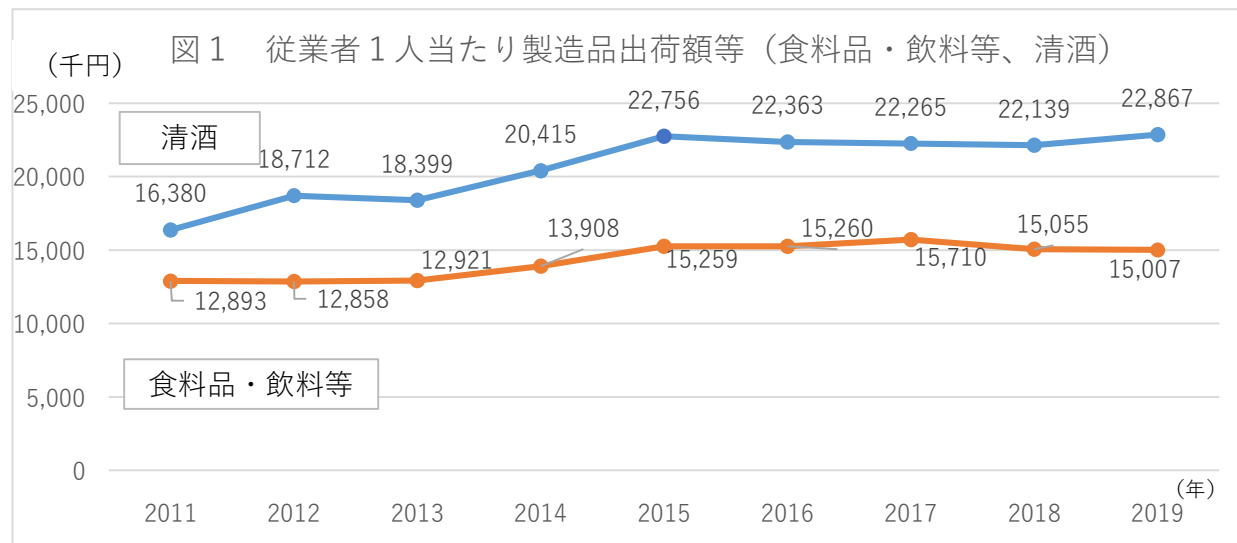
＜労働生産性向上に係る要因分析＞

- 総生産額の上昇
県内の宿泊者数が、日本人・外国人ともに大きく増えていることが寄与していると思われる。
- 業務の効率化
総生産額が増えている一方、就業者数は減少し、労働時間も増えていないことから、業務の効率化が進んでいると思われる。

※参考（労働生産性）

「総生産額（産出）」を「労働量（投入量）」で割ったもの。労働者1人当たりの成果。
労働生産性＝「総生産額」／「就業者数」

製造業（食料品・飲料等）における従業員1人当たりの製造出荷額等について



＜データ結果＞

- 食料品・飲料等の従業者1人当たり製造出荷額等を見ると、2017年までは増加している。（図1）
- 清酒製造の従業者1人当たり製造出荷額等は、増加傾向にある。（図1）
- 食料品・飲料等の製造品出荷額を見ると、2017年までは増加している。（図2）
- 清酒製造の従業者1人当たり製造出荷額を見ると、2018年までは増加している。（図3）
- 食料品・飲料等の事業所数は年々減少している一方、清酒は減少傾向が見られるが、大きな変動はない。（図4）

＜1人当たり製造品出荷額の増加に係る要因分析＞

- 製造品出荷額（食料品・飲料等）の増加
誘致企業による操業開始や中食の需要拡大などが影響し、増加してきたものと思われる。
- 製造品出荷額（清酒）の増加
海外での需要の高まりにより輸出量が増加したほか、高品質な特定名称酒へのシフトが進んだことにより、増加してきたものと思われる。
- 集約化と需要の拡大
小規模事業者等の廃業・集約化等が進む一方で、国内外における中食・清酒等の需要拡大により、1事業所当たりの製造品出荷額が増加してきたと思われる。